

10.九州(地域別調査機関:(財)九州経済調査協会)

( -:回答が存在しない、 :主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている			
	やや良く なっている	商店街(代表者)	来客数の動き	・暖かくなり、非常に寒かった昨年末の反動もあって来街者数が増えている。
		商店街(代表者)	お客様の様子	・来客数が増えている。まだ購買に直接つながっていないが、購買意欲は高くなっている。
		百貨店(売場主任)	お客様の様子	・今まで消費に対して消極的であった客の購買活動が、目に見えて顕著になってきた。
		百貨店(販売促進担当)	来客数の動き	・購買意欲は高いが、なかなか売上につながらない。顧客ニーズの変化のサイクルがこれまでより更に短くなった。
		スーパー(総務担当)	お客様の様子	・ここ数か月間、食品中心の好調さはあるものの、衣料品、住居用品が今一つ伸びてこなかった。しかし、3月に入り、昨年並みの売上に回復しつつある。
		スーパー(総務担当)	来客数の動き	・来客数もさることながら実質の買上客数が若干伸びてきている。春物の購入も若干上向きである。
		コンビニ(エリア担当)	単価の動き	・例年、春先に売れ数が上昇するおにぎり、調理パン等の売上が前年を下回っている。来客数は変わらないものの、買上点数は減少しており、必要な分だけを購入するという現象が目立っている。
		コンビニ(店長)	来客数の動き	・観光客の増加により、来客数が伸びている。
		コンビニ(販売促進担当)	販売量の動き	・販売量は、量販店で前年比10%の伸び、ローカルスーパーで前年比8.5%の伸び、コンビニは前年比4.7%の減少となっている。
		衣料品専門店(総務担当)	来客数の動き	・婦人向けブティックを路面店に新規オープンさせた。店内地下にテナント本屋を導入した結果、学生、ヤング、高齢者と幅広い層の来店があり、来客数が20%増となっている。ビル全体への売上の波及効果もあり、売上は前年比8%増となっている。
		家電量販店(経営者)	販売量の動き	・地上デジタル放送開始に向けて、買い求めやすい金額になってきた薄型テレビやDVDレコーダーなどが良く売れ始めた。
		家電量販店(店長)	販売量の動き	・客単価、購入点数が徐々に上がっており、売上が増加している。
		乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・契約件数がおよそ2倍に伸びてきた。
		乗用車販売店(管理担当)	来客数の動き	・土日のイベント開催時の来場者数が増え、車検、整備の客も多くなってきている。
		一般レストラン(経営者)	単価の動き	・例年3月は12月に匹敵するほどの売上が上がるが、今年は減少している。しかし客単価が下がっているわけでもなく、単価の高い商品は申込みが増えてきている。
		一般レストラン(スタッフ)	来客数の動き	・春休みに大きな家族連れ、5~10名様くらいの小団体の客がかなり増えた。
		その他飲食[居酒屋](店長)	来客数の動き	・鹿児島でイベントがあり来客数が多かった。それに伴って人が集まったことで金も動き、大変良い月であった。
		観光型ホテル(スタッフ)	販売量の動き	・予算は届かなくとも、前年比ではかなり伸びている。
		都市型ホテル(スタッフ)	来客数の動き	・宿泊者数が1~2月と比べて増えており、卒業式後の謝恩会などの人員も前年に比べ増加している。
	都市型ホテル(副支配人)	販売量の動き	・インターネットでの予約が随分伸びているが、客単価は伸びていない。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・客の動きが、朝から夜遅くまで全体的に良くなっている。昼は買物客が多く、夜は歓送迎会等、時期的なものもあるが今月の売上は良くなっている。	
	テーマパーク(職員)	来客数の動き	・3月及び春休み、ゴールデンウィークまでは予約ベースでも好調に推移している。	
	ゴルフ場(支配人)	単価の動き	・プレイ費、飲食ともにシビアになっている。	

	ゴルフ場（従業員）	単価の動き	・ゴルフのプレー料金が落ち着いており、隣接するゴルフ場の価格が低下している。ショップ関係では春夏物のウェアが定価で少しずつ売れている。
	競輪場（職員）	販売量の動き	・販売額が例年に比べ上がっている。
	美容室（店長）	来客数の動き	・卒業式、入学式と忙しい時期にもかかわらず、来客数はさほど変わらない。しかしカットやパーマをする時期が早まってきたような気がする。
	設計事務所（所長）	お客様の様子	・設備投資や建築、増築の相談が増えている。
変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・佐賀城下ひなまつりが終盤を迎えており、人通りは多いが、買物客はなく、品物の動きはない。
	商店街（代表者）	販売量の動き	・中心商店街の小売商店では、売上が良くなってきているという声は聞こえない。特に、熊本市は郊外に大型商業施設が乱立し始め、そちらに客を取られており、売上は悪くなってきている。
	商店街（組合職員）	来客数の動き	・市内全域で開催されたひな祭りの来街者が大幅に増加している。店舗にもよるが全体的には経済効果があつた。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・衣料品、美容院関係は入卒シーズンでもあり、来客数が多かった。しかし全体的には、一般小売店は冷え込んでおり、特に紳士服、小物雑貨店等は悪い。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街の売出しをしたが、来街者数が少なかった。
	一般小売店〔青果〕（店長）	それ以外	・し好品である果物関係の動きがかなり鈍くなっており、客単価も低調に推移している。
	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・売上は前年をクリアするものの、シーズン商品の動きが鈍い。婦人衣料もヤングを除き前年割れで、特にボリュームゾーンの動きが今一つである。
	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・福岡地区では、福岡県西方沖地震の反動により、前年に比べれば売上は順調に推移しているものの、前々年と比べると、売上や来客数は決して多いとは言えない。
	百貨店（営業担当）	単価の動き	・高額品が売れるようになっており、特にメンズが活況である。
	百貨店（売場担当）	販売量の動き	・今月の売上は前年比99%である。婦人、紳士衣料品は好調に推移しており、食料品もほぼ前年並みであるが、家庭用品は若干苦戦している。
	百貨店（業務担当）	販売量の動き	・春物の本格的な需要期に入るが、婦人衣料を中心に動きは鈍化している。婦人雑貨や子供服を含めて、入学・卒業・就職等の商材も関連商材の売上につながっていない。
	百貨店（売場担当）	販売量の動き	・来客数は3か月前と比べて増えているが、実際の売上は前月より厳しい状況が続いている。世間では製造業を中心に景気は回復しているが、ぜい沢品を扱っている百貨店としては、客が無駄なものを買わないために売上が伸びない。
	百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・来客数は、昨年の福岡県西方沖地震の反動もあり、昨年実績を確保しているものの、売出しの低迷が続いている。2月の春物好調の反動などで、単価、買上率とも下落傾向にある。
	スーパー（経営者）	来客数の動き	・ドラッグストアによる低価格戦略や大型店の進出により、客が分散し、来客数減につながっている。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数が前年を下回る状況が続いている。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・単価そのものが落ちている。来客数はほとんど変わらないが、多数の競合店の立地により競争が激化し、単価、買上点数が下落している。
スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数が前年比95%と苦戦している。天候不順もあり春物衣料の動きが非常に厳しい。	
スーパー（企画担当）	来客数の動き	・天候は前年並みであるものの、週末やポイント2倍デーを中心に雨天、雪の日が多かったことやディスカウント競合店のオープン等により、来客数が伸びない。	
スーパー（経理担当）	販売量の動き	・特定の地域、特定の店舗というわけではなく、新店を除いて全体的に売上が低迷している。	

	衣料品専門店 (店員)	お客様の様子	・正価販売の時期であるが、春物の立ち上がりもまずまずで、客の購買意欲も高く新しいものを買いたいという客が増えた。結果として売上もまずまずの成績であった。
	家電量販店(総務担当)	お客様の様子	・例年、最繁忙期の一つであった春のマーケットが、年々縮小している。
	家電量販店(企画担当)	販売量の動き	・人気商品の薄型テレビや地上デジタル放送対応のテレビは良く出ているが、一般の家電の動きはあまり良くないため、全体的にはあまり変わらない。
	住関連専門店 (経営者)	単価の動き	・来客数はそこそこあったが客単価が低く、プライダル等の高額商品の動きが相変わらず悪い。転勤、入学等の家具の需要も最近では少なくなっている。
	その他専門店 [書籍](店長)	販売量の動き	・オーバーストアー状態で、業界そのものが非常に厳しい。
	その他専門店 [ガソリンスタンド](統括)	販売量の動き	・燃料油の小売価格は依然、高い水準で推移しているが、需要は昨年と比べても大差はない。
	高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・月末に送別会等が増えているが、大幅な増加ではない。
	高級レストラン (専務)	来客数の動き	・新幹線の部分開業効果が現れていたが、それに伴い圏外中央からの出店が増え、パイの奪い合いという形で売上が全体的に落ちている。
	一般レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・夜の動きが特に減った。
	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・関西のテーマパークが特に人気である。春休みの旅行は、のぞみ増発効果による鉄道の利用や、運賃値下げを行った航空会社の利用が多い。
	タクシー運転手	お客様の様子	・昼のタクシーの動きに良い日と悪い日のむらがある。夜はあまり変わらない。
	タクシー運転手	販売量の動き	・今月の売上は前年比5%減で推移しており、まだ下げ止まる気配がない。いくらか昼の動きは良くなっているが、夜の動きが悪い。
	通信会社(管理担当)	来客数の動き	・来客数が落ち着いてきた。
	通信会社(業務担当)	競争相手の様子	・3月は需要期を迎え、業界全体の販売台数としては前年を上回っているが、近隣への競合店舗の出店及び改装が相次ぎ、客が分散して自店の販売は伸び悩んでいる。
	通信会社(企画担当)	販売量の動き	・引越越しシーズンのためか、契約、解約が多くなってきた。
	観光名所(職員)	来客数の動き	・観光施設では、入場者が前年比で10%程度上回っており、個人客が少し増えている。ゴルフ場については昨年より悪い。
	美容室(経営者)	販売量の動き	・美容業界では繁忙期になっているが、昔のような活況はない。少子化の関係もあるのか、若者の来客数の急激な伸びがない。
	設計事務所(代表取締役)	お客様の様子	・官公庁の建設関連の業務は、発注件数が財政上の問題から減少している。都市再生に関する業務の発注もみられるが、業務を実施している自治体が限られている。民間の業務は、住宅開発なども確実に販売できるプロジェクトに絞られてきており、関与できる業者は限られている。
やや悪くなっている	商店街(代表者)	来客数の動き	・天候次第で、年配客を相手にしている店は来客数が少ない。
	商店街(代表者)	来客数の動き	・金融緩和政策が解除されたとたんに売れなくなった。インフレを予防するためという背景があったと思うが、われわれ小売業者にすると、尚一層デフレに拍車がかかり、デフレの底が割れたような感じである。とにかく売行きが良くない。
	スーパー(店長)	販売量の動き	・衣料品や服飾雑貨、インテリア関係がまだ動かない状況である。
悪くなっている	百貨店(営業担当)	それ以外	・大型商業施設がオープンしてから約1年経つが、近辺商店街ではシャッターを下ろす店が今年に入り続々とあり、これがまた増え続けている。

		スーパー（店長）	お客様の様子	・日曜日の売上が前年比85%と大きく影響している。郊外型の大型店が相次いでできたため、商圏が広域になり、平日の売上はそこそこあるが、日曜日の落ち込みがひどい。
企業動向関連	良くなっている	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・具体的には、半導体の樹脂の部分の受注が好調である。特に自動車関連が大変強いインパクトで受注の引き合いや商談をしている。
		建設業（総務担当）	それ以外	・型枠大工、建具、タイル工などの職人が非常に足りず探すのが大変である。工期を守るのにとっても苦労している。
	やや良くなっている	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今月は例年伸びる時期であるが、今年も順調に伸びた。特殊鶏肉の需要は順調に伸びているが、一般鶏肉は在庫にもなっている。
		繊維工業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・国内工場での受注が多くなってきている。工場自体が少なくなってきており、工場の規模も小さくなってきているせいである。
		家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・官公庁の年度末という需要期を差し引いても、受注量は確実に増えている。ただ、家具業界での勝ち組と負け組がより鮮明になりつつあり、景気動向以外での企業間の戦略が格差を大きくしている。
		窯業・土石製品製造業（取締役）	取引先の様子	・全体的に景気は上昇傾向である。特に製造業では、大企業だけでなく、中堅、中小企業でも取引先等へ支払いの状況や決算の数字が上向きである。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・客の設備投資意欲が積極的である。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・戸建て販売業者の融資案件の申込み件数が昨年より増えている。
		新聞社（広告）	取引先の様子	・先月同様、新北九州空港関連で北九州は若干上向きである。取引先である百貨店など流通関連は、少しずつ良くなっており、新聞広告も増えている。ただ福岡地区の新聞広告の元気がない。
		広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・下期に入って売上が2けたの伸びである。
経営コンサルタント	それ以外	・街中の人出や商店街への来街者数が増えてきている。季節的なものなのかはわからないが、少なくともここ数か月で人出は多くなっている。		
その他サービス業〔物品リース〕（役員）	受注量や販売量の動き	・受注案件が通常月の2倍以上に膨れており、設備投資への意欲向上も大いに見られる。		
変わらない	農林水産業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・価格は、例年に比べ高値で推移した。ただし、今月は毎年のように田植え（早期米）などの別作業が入ってくるので、園芸作物の収穫時間が減少し収量減となる。重油価格は相変わらず高く、トータルの収支は厳しい。	
	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・受注、売上は昨年とあまり変わらないが、燃料であるガス代が高騰し、それを製品価格に転嫁できていない。また、新商品については特色があり機能性のある製品でないとなかなか売れず、苦戦している。	
	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・電子部品関係の半導体リードフレーム並びにそれに付随するコネクタ関係及びパッケージ状況から見ると、やや上向きで推移している。特に金型関係、精密機械部品等の動きは従来と変わらず活発に動いている。	
	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・例年だと3月というのは半期の決算月であり、各メーカーとも「押し込み」というものをする。ここ数年、通常より少し荷動きは良いが、昔のように客がストックしてくるわけではない。	
	金融業（得意先担当）	取引先の様子	・法人先の新需要は特に大きな動きはない。個人については日銀の量的緩和解除の影響もあり、今後固定金利が上昇することも考えられる中、多少の動きが見られる。	
	経営コンサルタント	取引先の様子	・取引件数は増加傾向にあるが、内容的には単価が低くなっている。	
やや悪くなっている	鉄鋼業（経営者）	取引先の様子	・地場ゼネコンからの引き合いが減少し、特約店の受注量が減少している。	

		輸送用機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・売値はコストダウンの要請があり、買値は石油、鉄鋼関係の商品・サービスの価格高騰により上昇し、厳しい状況である。
		輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・年度末であるが、荷動きが非常に悪い。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・福岡で多くの雇用を抱える商業・サービス部門からの資金需要が乏しい。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・今までの経営内容の改善、リポートの見直しなどで酒類卸業では利益の改善ができており、動きが活発化している。
	悪くなっている	-	-	-
雇用 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・派遣オーダーの状況からみると、年度末の需要期と違った需要があるようである。昨年よりもオーダー件数が伸びている。
		人材派遣会社（社員）	それ以外	・昨年に引き続き、料金の改定をお願いするが、ほぼ全企業で料金の上昇に成功した。企業の利益が労働者にも還元され始めている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・新北九州空港が開港し、空港関連企業の動きが良い。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年比で減少が続いていたが、1月以降は増加が続いている。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・景気が悪いときはリストラ等からどうしても求職者数が増えるが、最近は景気が良くなっている中で求職者が増えてきている。特に若い人で在職者の増加が際立っている。
		民間職業紹介機関（支店長）	求人数の動き	・新年度の採用、人材派遣の要請が前年より大きい。金融関係職種、営業・販売職は供給が追いつかない状況である。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・年度始めを控えての3月は、例年であれば求人の動きが活発になるが、今年は派遣社員の交代など、新規の案件が少なかった。
		求人情報誌製作会社（経営者）	それ以外	・正社員の雇用が思ったほど伸びなかった。
		求人情報誌製作会社（編集者）	採用者数の動き	・今年に入って、フリーターの採用が一段と厳しくなっている。特に製造業や物流などで、主力となっていたアウトソーシングでのフリーター採用が行き詰まってきている。時間給は上昇傾向にある。
新聞社〔求人広告〕（担当者）		周辺企業の様子	・全国の有効求人倍率は1倍を上回り、求人ブームが到来しているが、福岡県は全体で31位にとどまっており、ブーム到来の実感はない。愛知県、東京都、大阪府の3大都市圏が有効求人倍率全体を引っ張る構造は変わっていない。	
	やや悪くなっている	-	-	-
	悪くなっている	-	-	-